SL銀河

さよならSL銀河

東日本大震災被災地の復興シンボル

中貴志小学校
5年A組
高岡 煌

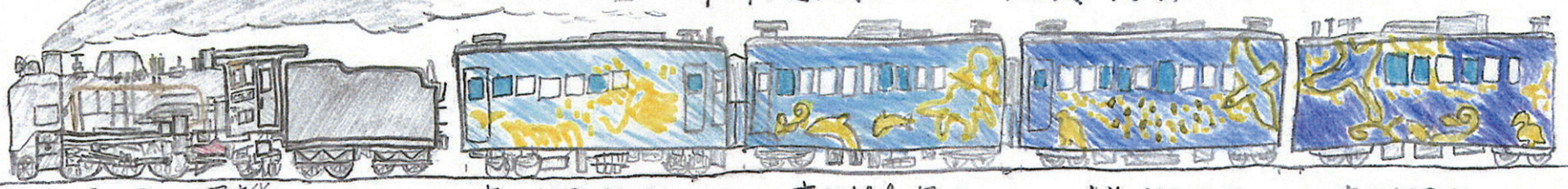
釜石線におけるSL列車運行実績

1989～1992　D51-498「ロマン銀河SL」運行
1995～2001　D51-498「SL銀河ドリーム号」運行
2001～　銀道ファンや観行客のマナーの悪化により不定期運行となる
2011年3月11日東日本大震災。三陸地方は甚大な被害を受ける。
2014年3月　D51-498「みちのくSLギャラクシー」運行
2014年4月　C58-239が42年ぶりに復活「SL銀河」として運行を開始

2023年春で運行終了！

JR東日本盛岡支社は東北の復興支援と地域活性化を目的にSL復元に約4億円をかけ、2014年4月から岩手県の釜石線で「SL銀河」を運行してきたが、客車が老朽化し、部品調達も困難になったため、2023年春で運行を終了すると決断した。沿線住民や鉄道ファンからは、別れを惜しむ声が挙がっている。

車輌編成　定員176名



C58-239号機
テンダー式蒸気機関車
1940年製造・川崎車輌製
愛称　"シゴハチ"
現役活動32年の内大部分を岩手県内で活躍。引退後は盛岡市の県営運動公園内の交通公園に静態保存されていた。

キハ142-701
さそり座
小型プラネタリウムを用いた天体ルームを設置

キハ144-702
いて座
トイレ
「銀河鉄道の夜」資料展示

キサハ144-701
わし座
「宮沢賢治」資料展示

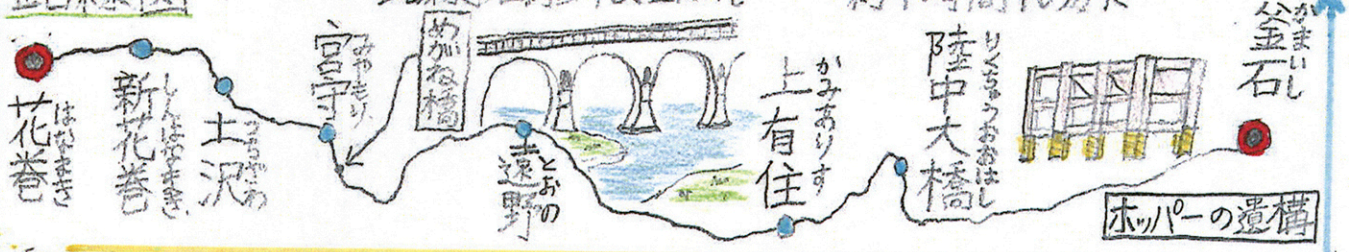
キハ143-701
はくちょう座
バリアフリートイレ
売店・ラウンジ設置

青い客車は夜が明け、朝へと変わりゆく空を表現している。

宮沢賢治

路線図

路線距離90.2km　約4時間半の旅



SL銀河の名前の由来

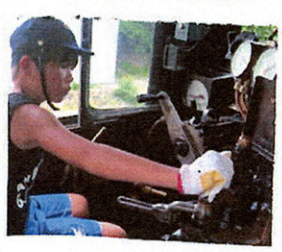
岩手県花巻市生まれの詩人、童話作家である宮沢賢治が、釜石線（当時は岩手軽便鉄道）を舞台に描いた「銀河鉄道の夜」に由来し、客車の外観は作中に登場する星座や動物が描かれ、内装は、賢治の生きた大正時代を思わせる造りになっている。

復興の成果

震災で釜石線は津波浸水したが、幸い釜石線は他の路線に比べ比較的被害が少なく、翌月の2011年4月半ばにはほぼ復旧した。「SL銀河」は2014年8年間で約58000人を乗せ、沢山の観光客を呼ぶことに成功した。SLがきっかけで訪れた人が食事宿泊をし、お土産を買うことでお金を使ったのは確かだが、その具体的な効果を数字で表す事は難しい。だが、沿線住民はいつも手を振り応援してくれた。それほど愛され心の支えになった事は大きな成果だと思う。

SLの未来

今回「SL銀河」がなくなることになったが、日本ではディーゼル機関車や電車が増えていき、1975年12月でSLの定期旅客列車はなくなってしまった。しかし同時期にSLを動く状態で保存しよう（動態保存）という動きが起こり産業遺産・観光資源として、現在約20輌が動態保存されている。でもこの先老朽化とは別に大量のCO_2を排出することで、環境の面でも保存が難しくなるのではないかと不安だった。しかしぼくの住む和歌山県で世界初のCO_2を出さない「SL SDGs応援号」D51-827が2019年8月に走行した。使用済みの食用油を精製したバイオ燃料でエアーコンプレッサーを駆動させ大気中のCO_2を増やすことなく圧縮空気で走る。バイオ燃料100Lで80人の乗客を乗せた客車をけん引し、25km走ることができる。ぼくは乗車と運転体験をしたが、安全で力強さもそのままだった。この様な環境に良いSLを実用化させていき、今よりももっと沢山の人が応援してくれれば、SL動態保存の未来は良い方へ進んでいくと思う。



編集後記

過去に観光客のマナーが原因で運行が中止になったことがあると知った。老朽化はどうしようもないことだが、マナーのことなら直すことができる。今後観光客一人一人がマナーのことを気をつけていけばこのようなことは起こらないと思った。